

# 令和6年度 研究推進計画

学校名 江田島市立大古小学校

学校長名 畠藤 邦子

## 1 研究主題・研究内容・方法等について

### (1) 研究主題

**他者と協働し、主体的に学び続ける児童の育成**  
**～発達段階に応じた自律的で協働的な学び（自学スタイル）の充実～**

### (2) 主題設定の理由

本校は、令和2年度より自学（自律的な学習）をベースにした学習環境デザインの創造に取り組み、一昨年度は主に算数科を中心に全校で自学と協働的な学びを組み合わせた自学スタイルを確立してきた。自学スタイルの典型的な学習展開は、①課題の把握、②個別や協働の学習による理解、③説明課題による理解深化、④練習問題による習熟と評価である。「学びの責任は自身にある」という考えが自学のおおもとにあり、個別に最適な学習環境を整え、自己の行動を調整する力を養えるよう、それぞれの児童が学習進度、学習方法、誰とどこでといった学習環境を選択し自律的に学習を進めることができる学習デザインとなっている。そして、昨年度は発達段階に応じた自律的で協働的な学び（自学スタイル）の研究を行った。また、学校と家庭とが連携し自律性を高める取組として家庭学習を選択制にするとともに、メディア遮断（寝る前30分間）や早寝早起きの生活習慣の確立にも力を注ぎ、児童を取り巻く環境および活動全般について、自己実現と自己決定という視点で包括的に見直しを図り、取組を継続した。

これらの取組の結果、児童の同一化的動機付けレベルは昨年度と同水準を保っていることが分かった。学習調整行動の意識調査からは協働に関する項目の上昇が見られた。自律的な動機づけレベルは高いことが分かったが、学力の高まりについては昨年度より低くなった学年もあり、課題が見られた。研究授業での教師の見取りと働きかけチェックシートの評価から、習熟の項目が低く、定着までを代入込むことができていることも関係していると考えられる。そして、学習調整行動の質問紙調査結果の見通しをもつ項目と「(7) 学習をどのように進めるかや、どこまで進めるかは、自分に任されていると感じる。」が低くなっていた。このことは、自学スタイルを進めてきた上で課題であると考えられる。

そこで、今年度も発達段階に応じた自律的で協働的な学び（自学スタイル）の充実を模索していく。そのためにも、低、中、高学年の段階に合わせた教師の見取りと働きかけチェックシートを作成し、授業作りに生かす。その際、これまで同様、習熟までを代入込むとともに、新たに児童自身の学びの振り返りを授業内に位置付け、児童が見通しをもち、自分の学びを自分で行っていると実感できるようにする。

### (3) 研究仮説と研究内容

①発達段階に応じた自律的で協働的な学びを充実させ、授業内に自らの学びを振り返る機会を設けることにより、②児童の自律的な学習意欲は高まり、③1時間の授業および

授業外の学習活動が充実するだろう。その結果として④学力は高まるだろう。

- ・教材研究等による事前研究
- ・発達段階に応じた自学スタイルの充実、児童が自らの学びを確かめ、次への見通しをもつ振り返り
- ・授業外学習の取組（選択制家庭学習、隙間時間の充実、放課後補充学習を含む）

(4) 検証の指標

- ①「発達段階に応じた自律的で協働的な学びの充実」については、低・中・高学年別に示す「教師の見取りと働きかけチェックシート」を指標として実践を行い、その自己評価および授業参観者の評価により検証を行う。「自らの学びを振り返る」については、③と同様の児童への学習調整行動の質問紙調査によって検証を行う
- ②「児童の自律的な学習意欲の高まり」については、年度の前期と後期に行う自律的学習動機づけに関する調査によってその変容を検証する。
- ③「授業および授業外の学習活動の充実」については、児童への学習調整行動の質問紙調査によって検証を行う。さらに、家庭学習についてのアンケートからも考察を行う。
- ④「学力の向上」については、単元テストおよび標準学力調査の結果から分析を行う。

(5) 本校で育成したい資質・能力（本年度の重点は太線）

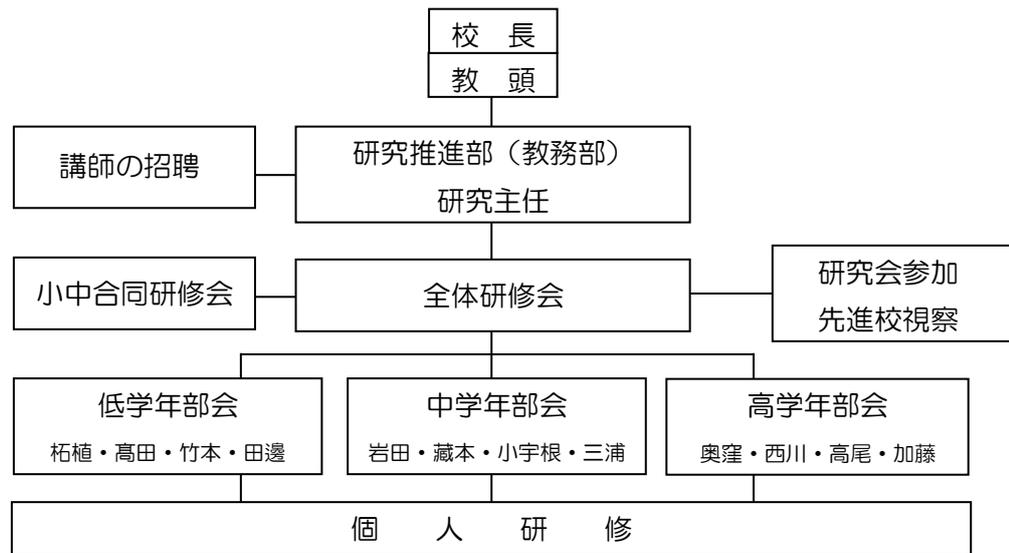
	観点	1・2年生	3・4年生	5・6年生
協働する力	自分を律する	ルールを守る・がまんする	自分で判断する・意識して自分をおさえる	特性を自覚して行動する
	自分を大切に する	自分の考えを伝える	わからないことはわかるまで追究する・相手にわかってもらうまで伝える	対等な立場で、互いのよさを生かして解決する・新しいものを生み出す
	他者を大切に する	どんな相手でも話を最後まで聞く	相手の「なぜ」や「わからなさ」を含め、言うことを受け止めて返す	
学びに向かう力	何事にも好奇心をもつ	経験を増やす	勧められたことはやってみる・よさを見つける	自分の興味を追究する
	嫌になっても目標に向かって粘り強く取り組む	励ましを受けながら最後までやり遂げる	目標に向けて嫌でも続ける	適切な目標を設定し、目標に向かって取り組む
	計画を立てて遂行しつつ、状況の変化に応じて行動する	毎日の決められた課題を確実にする	1週間程度の期間の猶予がある課題について計画を立てて遂行する	課題について計画を立て自主的に遂行する・臨機応変に対応する

2 校内研修計画

(1) 研修方法

- 理論研修、実践交流、研究授業を通して、教職員の研修を深める。
- 研究授業のための事前研修と事後研修を行う。

(2) 研究組織図



(3) 研修日程

月	日	曜	研修形態	研修内容
5	8	水	全体研修	研究推進計画、第1回校内研修の事前研究（5年）
5	28	火	全体研修	第2回校内研修の事前研究（4年）
5	31	金	全体研修	第1回校内研修授業研究（5年）
6	12	水	全体研修	第3回校内研修の事前研究（6年）
6	19	水	全体研修	第2回校内研修授業研究（4年）
7	4	木	全体研修	第3回校内研修授業研究（6年）
8	28	水	全体研修	第4回校内研修の事前研究（2年）
9	20	金	全体研修	第4回校内研修授業研究（2年）
10	23	水	全体研修	第5回校内研修の事前研究（3年）
11	8	金	全体研修	第6回校内研修の事前研究（1年）
11	15	金	全体研修	第5回校内研修授業研究（3年）
12	6	金	全体研修	第6回校内研修授業研究（1年）
2	7	金	全体研修	研究の成果と課題について

太陽1組、太陽2組は、期間を決めて授業参観、交流を行う。

3 研究公開の予定

なし

4 研究構想図

